1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15 七五三	16	17	18	19	20	21
22	23 新嘗祭	24	25	26	27	28
29	30					

11/15

七五三（しちごさん）

天和元（1681）年、館林城主で徳川綱吉（とくがわつなよし）の長男である徳松（とくまつ）の成長を祈る儀式を由来とするのが有力で、関東圏を中心に全国各地で行われています。



千歳飴（ちとせあめ）

でんぷんまたは、もち米を糖化させた紅白の長い飴糖。長寿を願う縁起もので、鶴亀や松竹梅などが描かれた千歳飴袋に入っていて、年齢の数の飴が入れられています。



11月の酉の日

酉の市（とりのいち）



酉の市の歴史は、浅草の鷲（おおとり）神社と同じ浅草の鷲在山長國寺（じゅざいさんちょうこくじ）、足立区の大鷲神社を由来とするものなどいくつかあり、12日に一度巡ってくる「酉の日」に開かれる祭事です。11月最初の酉の日を一の酉といい、2番目を二の酉、そして3番目の三の酉が巡ってくる年は火事が多いといわれています。境内や参道には熊手などの縁起物や飲食物の市が並びたいそう賑わいます。熊手は「運や金銀を掻き集める」という洒落から生まれたそうです。

11月中旬

高千穂の夜神楽（たかちほのよかぐら）



高千穂町観光協会提供

毎年11月中頃から翌2月にかけて氏神様を迎えて奉納される神楽神事。天照大神（あまてらすおおみかみ）が天岩戸（あまのいわと）に隠れたとき、天鈿女命（あまのうずめのみこと）が舞った舞いを起源とします。収穫への感謝と翌年の五穀豊穣を願い、夜を徹して舞う夜神楽は幻想的な美しさに満ちあふれています。